

生活文化博物館への招待

本博物館は、教育・研究資料を収集及び保管し、郡山開成学園の学術の諸分野と連携し、教育・研究の資料として活用するとともに、一般に公開して、広く地域文化の創成に寄与することを目的として、設立されました。

生活文化博物館の前身は「日本風俗美術館」です。「日本風俗美術館」は服飾史研究家、井筒雅風氏の復元された古代から近世までの衣装を等身大の人形に着装させ、当時の社会的地位や性別に合わせた複製装身具と共に展示してきました。本博物館ではその展示を引き継ぎながら、学内にある生活文化や美術関係の資料を加えて、さらに幅広い日本の生活文化に関連する資料を展示しています。

本学園は人間守護の家政学を樹立した、創立者関口富左の建学の精神に基づき、多角的に人間の生活と文化の研究・教育を行っています。その中で収集した教育・研究資料は多岐にわたり、それらが本博物館の展示の中核になっています。

本博物館は、短大学芸員課程学生の実践的教育施設として、また、学生・生徒・園児の教養教育の場として活用しています。それだけでなく、一般の方々にも本学園の研究・教育の実際をご理解いただくために公開しています。常設展以外にも特別展、企画展を随時開催し、毎年実施している芸術鑑賞講座の美術展の監修も致します。

当館は博物館法（昭和26年法律第285号）第11条に則り、令和5年10月4日、福島県教育委員会より、博物館として登録されました。今後は一層、地域文化の創成の一助となることを願ってやみません。

郡山開成学園理事長

郡山女子大学・郡山女子大学短期大学部学長

郡山女子大学附属高等学校校長

関口 修

学内案内図



※入口は図書館(2F)より

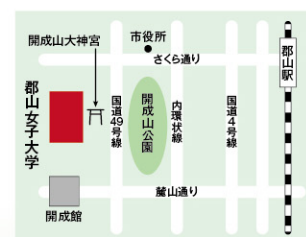
学内のブロンズ像

生活文化博物館に展示された資料の他にも、学内ではさまざまな作品に出会えます。たとえば幼児から年配まで、人生の各時代の人体を表現したブロンズ像があります。それらは、学園の創立者、関口富左先生が、学生の瑞々しい感性で受け止め、人生を考える助けにして欲しいと願って、設置したものです。彫刻家の制作に打ち込んだ意図と共に、富左先生が設置場所や展示方法に込めた願いを感じ取りながら、鑑賞しましょう。

- | | | |
|------|--------|---------------------------|
| きたむら | せいぼう | ① 北村 西望 「将軍の孫」(2F通路) |
| たむら | しろう | ② 田村 史郎 「よくみる」 |
| おおし | たかし | ③ 大石 尚 「よくきく」 |
| いわの | ゆうぞう | ④ 岩野 勇三 「かんがえる」 |
| | | ⑤ 田村 史郎 「大きいシャツ」 |
| ささと | ちづこ | ⑥ 笹戸千津子 「今、わたし」 |
| みさか | こういちろう | ⑦ 三坂耿一郎 「渺」 |
| | | ⑧ 北村 西望 「母子像」 |
| | | ⑨ ブールデル 「長髪のベーターヴェン」(講堂内) |
| さとう | ちゅうりょう | ⑩ 佐藤 忠良 「母の顔」(講堂内) |



生活文化博物館
LIFE & CULTURE MUSEUM



学校法人 郡山開成学園

郡山女子大学大学院／郡山女子大学／郡山女子大学短期大学部
郡山女子大学附属高等学校／郡山女子大学附属幼稚園

〒963-8503 郡山市開成3-25-2

TEL. 024-932-4848 (代表)

<https://www.koriyama-kgc.ac.jp/>



日本服飾史美術人形



1. 衣・禪の男子〈古墳時代〉

古い時代の日本民族固有の服装で、唐の文化の影響を受けていない頃の男の姿です。衣は筒袖で丈は短く、袴は盤領(まるえり)による左衽。下にはゆったりとした禪(はかま)をはき、紐で膝の下を括っています。これを「足結(あゆい)」といいます。布地は麻。



8. 武官朝服〈奈良時代〉

養老二年の衣服令にもとづく六位の武官の朝服です。冠は白纓(くりのかとり)の頭巾(とさん)という柔らかな黒絹製。衣襖は六位相当の深緑闊腋(けってき)の袍(ほう)です。紐をあごで結び、纓(えい)は折り曲げています。武官とは軍隊や警察、裁判の仕事にたずさわる人達のことをいいます。



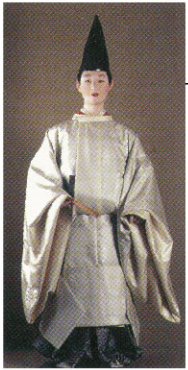
3. 漢織〈古墳時代〉

大陸の染織裁縫の技術は五世紀頃に渡来してきましたが、これを伝えたのが漢織(あやはとり)、呉織(くれはとり)という婦人達といわれています。従来の日本式のものとは違った漢の服装で、髪も漢風、髻を大きく後ろに出し、頭の両側に細く髪を垂れています。



10. 公卿束帯姿〈平安時代〉

現在、宮中における最も公式且つ儀礼の服装として用いられています。その由来は遣唐使廃止後の平安時代中期以降、朝廷出仕の服装すなわち朝服の形式を正装として整えたもので、以来今日に及んでいます。この人形のモデルは公卿として最高の家門である摂政家の若君の姿です。



12. 公卿直衣〈平安時代〉

直衣は常着という意味で、社交服、私服として使用されました。しかし、雑袍の勅許として中納言以上の人などに対しては直衣姿のまま参内が許されていました。通常は烏帽子を用い、参内の時は冠を用います。



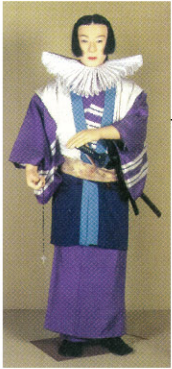
22. 大原女〈室町時代〉

京都の北、比叡山のふもと八瀬、大原に住み、炭や柴、薪を売りに町に出る女の姿をいいます。髪を後ろに束ね、黒の小袖に白の襦袢、紅白だんの細い帯をつけています。白の手甲、脛巾にわらじ履き、白い手拭を頭に巻いて柴を載せて売り歩きます。



28. 諸国勧進の出雲の巫女〈安土桃山時代〉

「歌舞伎」を創ったのは出雲のお国と名古屋山三郎と言われますが、そのお国になぞらえたものです。お国は出雲神社の巫女でしたが、大社修理の勧進のため諸国を経て都へきました。これはその時の姿で、この姿で舞ったと伝えられています。



29. キリシタンを信仰する武士〈安土桃山時代〉

桃山時代の天文年間に伝わった天主教(切支丹宗)が九州、近畿に伝導され、忽ち数万の信者ができました。九州の黒田、大友、細川の大名を始め、武士にも多くの信者ができました。信者の武士は欧州で流行のラフ(襷襟)を頸に巻き、十字架を掛け、刀を落とし差しにしていました。



31. 武家肩衣長袴姿〈江戸時代〉

高級武家の殿中の普通礼装です。三月三日、五月五日の節目の登城には大名も肩衣、長袴を着用します。俗にこれを長上下(長袴)といいます。肩衣の下には冬には熨斗目(のしめ)紋付の小袖、夏には白または花色の帷子紋付を着て小さ刀(ちいさがたな)を差します。

日本服飾史美術人形一覧

1	衣(きぬ)・禪(はかま)の男子	古墳時代
2	衣(きぬ)・裳(も)の女子	古墳時代
3	漢織(あやはとり)	古墳時代
4	呉織(くれはとり)	古墳時代
5	朝服	飛鳥時代
6	女官朝服	飛鳥時代
7	養老の衣服令による命婦礼服	奈良時代
8	武官朝服	奈良時代
9	貴婦人礼装(らいふく)姿	奈良時代
10	公卿束帯(そくたい)姿	平安時代
11	女房晴れの装束姿	平安時代
12	公卿直衣(のうし)	平安時代
13	公家女房小袿(こうちぎ)姿	平安時代
14	公家女子細長(ほそなが)	平安時代
15	童子水干(すいかん)姿	平安時代
16	僧兵裏頭(かとう)姿	平安時代
17	白拍子(しらびょうし)	平安時代
18	武士直垂(ひたたれ)姿	鎌倉時代
19	婦人壺装束、むしのたれぎぬ姿	鎌倉時代
20	壺装束に桂をかついた旅姿	鎌倉時代
21	桂女	室町時代
22	大原女	室町時代
23	雑兵腹当姿	室町時代
24	婦人被衣(かつぎ)姿	室町時代
25	武将胴服(どうぶく)姿	室町時代
26	武家上流婦人掛打冬姿	安土桃山時代
27	道服姿の茶人	安土桃山時代
28	諸国勧進の出雲の巫女	安土桃山時代
29	キリシタンを信仰する武士	安土桃山時代
30	白無垢花嫁	江戸時代
31	武家肩衣長袴姿	江戸時代
32	武家素襖(すおう)姿	江戸時代
33	武家長直垂(ながひたたれ)姿	江戸時代
34	町人道中引廻し合羽姿	江戸時代
35	江戸前期小袖姿	江戸時代

……本紙に掲載 制作/株式会社 井筒・財団法人 宗教文化研究所

名誉学園長 関口富左先生 寄贈品



11



7



5



1

2

3



14



13



12



4

1	能面 小品	若女	長澤 氏 春	10	練上嚙裂文 壺	松井 康 成
2	能面 小品	小面	長澤 氏 春	11	色鍋島薄墨草花文 花瓶	十三代 今泉 今右衛門
3	能面 小品	大飛出	長澤 氏 春	12	絵 皿	青磁シルクロード 三浦小平二
4	屏 風	狂言色紙貼交屏風	山口 蓼 州	13	風物文花瓶	青磁アフガン 三浦小平二
5	陶 芸	壺	田村 耕 一	14	陶 板	青磁満江下り 三浦小平二
6	白磁丸型	小花瓶	井上 萬 二	15	絵 画	春の花 小杉小二郎
7	白磁瓢形	一輪差	井上 萬 二	16	絵 画	海の見える丘 小杉小二郎
8	染彫篇文	壺	井上 萬 二	17	書	夕されば… 小倉 遊 亀
9	練上嚙裂文	壺	松井 康 成			